

研究だより

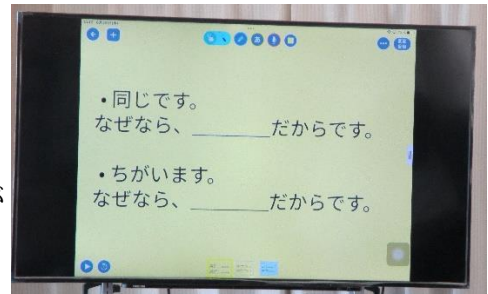
1 第3回 研究授業より学んだこと

（令和4年6月29日（水）6校時 第6学年「表とグラフ」 授業者 名賀春佳 教諭）

【協議会より】

①子どもの問いを生かす手立てについて

- ・ 挑戦問題がよかった。
- ・ 予習からめあてにつなげることができていた。
- ・ 目盛りを揃えたグラフの提示など気付きが生まれる工夫がたくさんあった。
- ・ 1人1人が自分の考えをもてていた。話型がよかった。子どもの発言をつなげていけたらさらによい。



②タブレットの活用・児童同士の意見交流について

- ・ 板書とタブレットの使い分けがうまくできていた。
- ・ ペアトークで児童の思考が深まった。座席や机間指導の工夫をするとさらに深まる。



【玉井指導主事先生より 指導助言】

①表やグラフの学習について

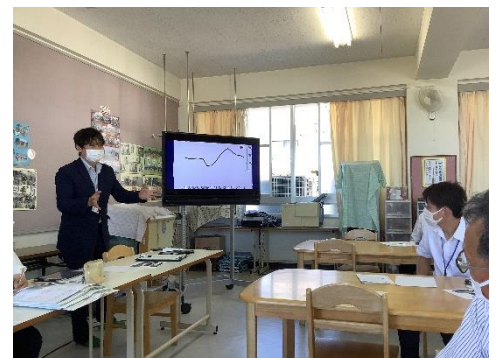
- ・ 一つの情報ではなく複数の情報があると、いろいろなことに気付ける。
- ・ グラフは目盛りの打ち方やどこから表すかで印象が変わる。

②問いを生かす手立てについて

- ・ 挑戦問題がよかった。子どもたちが目的意識をもつことができ、本時の最後の問題につながっている。「1目盛りが小さいと差ははっきりする。」というような児童の記述・発言が出た。
- ・ 単元の最後に挑戦問題に取り組むという方法もあるが、それより先に自分たちの学級のこととしてデータをとっていくと、目盛りに着目しないといけないということに気付く。

③タブレットの活用・意見交流について

- ・ 本年度は「効果的に」タブレットを活用することが目標。
- ・ 算数科では、データの収集・整理・分析に使う。タブレットシートなどを使って表やグラフが簡単にかける。かくことが難しい児童には活用させてもよい。
- ・ 今日の授業では、子どもたちは、話型があることで説明しやすかった。



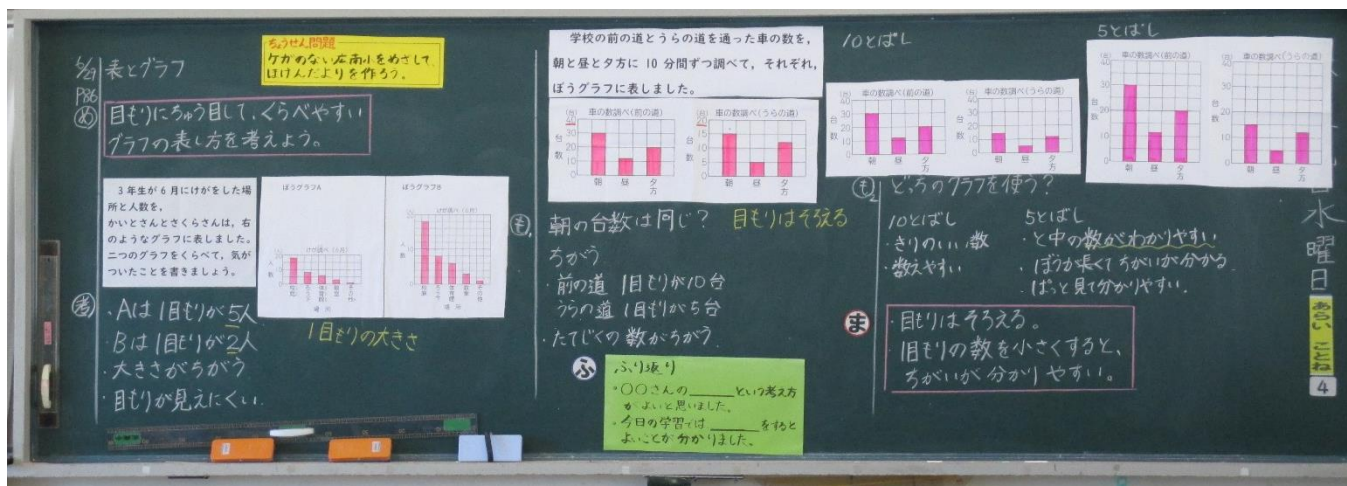
・児童の思考が、個・ペア・全体で一時間の流れが良かった。

④評価について

・指導案の中に「どうなったら A 評価か」具体的に児童の姿として明記しておくとうい。B をどのようにしたら A に引き上げられるのか、見取るものさしがあったらよい。

【山田校長先生より 指導助言】

- ・頑張ろうという気持ちになった子どもはすごい。名賀先生の日頃の指導のたまものである。
- ・目盛りに着目させるには、2つのグラフの縦軸の数字を隠して提示して、棒の長さと同じだが数値が同じかどうかを考えさせるという方法もあった。
- ・話型を使って理由とともに説明させるのがよい。「質問があります。」などの子どもの発言を生かしたい。
- ・子ども同士の発言をつなげることについては、訓練をさせる時期も必要である。ピンポン型ではなく、ビリヤード型の授業を、目指したい。



2 今後の予定

(令和4年7月7日(木) 6校時 第1学年「ひきざん(1)」 授業者 小林 知夏 教諭)